

内科

ピロリ菌除菌後の話



福本 学

■ 内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>

ヘリコバクターピロリ（以下ピロリ菌）の感染は胃がんのリスクです。そして、除菌治療を受けても胃がんのリスクがゼロになるわけではありません。除菌後の発がんは年率で約0.2〜0.4%で、除菌治療により胃がんのリスクを40〜60%減らすことができるかとされていますが、感染の多い胃に比べればがんになりやすいことは明

らかです。また、除菌後にピロリ菌陰性と判定された1年後の再検査で陽性となる例もあり、可能性は低いですが再感染したか、除菌直後のわずかな菌の残存を検出できなかったとも考えられます。なお、除菌後の判定検査を受けていない人は、感染が持続していないかを検査する必要があります。また、感染により胃全体の萎縮性変化が強くなると菌が存在できなくなり、陰性と判定されることもあります。そのため、ピロリ菌除菌後の人にも、がんの早期発見のために年1回の内視鏡をお

すすめしています。